

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	2017年9月7日
評価確定日	2017年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800104	事業の開始年月日	平成20年2月1日	
		指定年月日	平成20年2月1日	
法人名	社会衣福祉法人 秀峰会			
事業所名	春風の丘			
所在地	(224-0014) 神奈川県横浜市都筑区牛久保東3-23-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成29年8月10日	評価結果 市町村受理日	平成29年12月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春風の丘は、平屋建ての建物と広大な敷地内の庭には四季折々の花が咲き乱れ、ご利用者と共に職員が手入れをして育てております。又、今年度より園芸療法を取り入れ、外気に触れる事で四季の移り変わりを肌で感じたり、草とりや水やりで身体全体を動かし、活発的な生活が送れる事を目的としております。天気の良い日には、景色を楽しみながら庭園でのティータイムを楽しむ事が出来、清々しい環境を整えております。地域との交流も深く、防災協定の締結や、敬老会への招待、お祭りへの参加など地域の方に支えられており、安全・安心な生活が送れます。医療体制も法人内の診療所と契約している為、24時間の医療連携が確保されております

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年9月7日	評価機関 評価決定日	平成29年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人秀峰会の経営です。同法人は様々な高齢者福祉事業、保育園、地域ケアプラザ、クリニック等、横浜市内で多岐に亘る福祉事業を展開しています。現在グループホームを9事業所運営しており、そのうちの1ヶ所が「春風の丘」です。場所は横浜市営地下鉄「センター北」駅から徒歩15分程の住宅や町工場が点在し、近隣には公園や畑などの自然も残る環境下に位置しています。事業所は平屋建ての2ユニットになっており、渡り廊下を通ってお互いのユニット間を自由に行き来できる造りになっています。また、敷地内の庭も広く、畑や花壇では四季折々の野菜や花が栽培され、利用者が季節感を感じてもらっています。

●管理者は職員の定着率向上に力を入れて取り組んでいます。管理者自ら現場に入り、夜勤や清掃等も率先して業務をこなす等、職員からの声を聞きながらケアの改善と業務の効率化を図り、職員からの信頼も得られ昨年度からの職員の離職は1名のみと結果に繋がっています。ケアの方針として「利用者との関わり」を大切にしています。手が空いた時間は利用者との会話を心がけ、今その瞬間を大切にをモットーにケアに努めています。今年度からの新たな試みとして「園芸療法」を取り入れています。園芸療法は外気に触れ、直接肌で四季の移り変わりを感じてもらいながら、残存能力を生かして草取りや水やりをしてもらうことでADLの維持に繋げる狙いがあります。

●地域と関係については、毎月の町内清掃活動をはじめとして、敬老会や盆踊等の行事に声をかけていただき、積極的に参加しています。また、毎月開催している「春風喫茶」では多くの家族に参加していただき、家族間の関係や事業所との信頼関係も深まってきたので、今後は、地域の方々にも参加を呼びかけ地域の憩の場として、より多くの方に足を運んでもらえる事業所作りを目指しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	春風の丘
ユニット名	たんぽぽ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝の朝礼時に唱和をして、日々のケアで実践している	法人の理念「①人間が主体である②連帯の輪を無限に広げていく③日に日に新たな今日を創造していく」を毎日の朝礼時に唱和している他、月2回のテレビ朝礼でも理念の共有を図っています。職員は法人の理念や倫理綱領が記載されている「羅針盤」を携帯し、常にケアの方針を確認し、実践に繋げています。管理者は1日1日を大切に、今日しか出来ない事をやってみようとして職員に声をかけながら、理念に沿ったケアの実践に繋げています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	牛久保東町内会への加入をし、地域行事へは積極的な参加を実施している。 運営推進会議にも、ご利用者が出席され、地域の方とのコミュニケーションの場としている。公園へ散歩へ出れば、挨拶を交わし、地域の方々に支えられている	町内会に加入し、敬老会や盆踊等の行事に声をかけていただき、積極的に参加しています。6月には地域の虫送り(その年の豊作を祈願する)では夜間に地域の方がたいまつを持って事業所の前を歩いてくれるので、玄関前で利用者に見せてくれます。管理者は関わられる行事には100%参加しようと心がけており、毎月の町内清掃活動には必ず参加しています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験の場を設け、認知症支援の手助けをしたり、理解を深めて頂いている 小学校へ認知症サポート養成講座の講師としても、毎年参加している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解してもらい意見交換を行っている。また、話し合われた情報や地域の方の助言を職員間で共有し、日々のケアに活用している	2ヶ月に1回、町内会長、民生委員、家族、利用者、ケアプラザ職員の参加で開催しています。事業所の現状活動報告、ケアプラザや町内会長からは地域の情報を集め、積極的に行事等には参加しています。会議の内容については、議事録を回覧して全職員で情報共有しています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事に参加して頂き、日々の支援への報告や助言を頂いている	都筑区役所から、認知症サポーター講習の要請を受け、近隣の小学校で開催しています。区主催の研修会にも極力参加することを心がけ、情報収集や協力関係の構築に努めています。また、グループホームの定例会や交換研修にも参加し、他事業所との情報交換を行っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業部研修の中で、身体拘束廃止の研修を設けそれに参加している。参加者より、事業所の会議にて落とし込んで認識を深めている。 言葉による拘束(スピーチロック)には特に周知している	本部の事業部研修で身体拘束・虐待の防止についての研修を毎年行っており、参加者が事業所内の会議で内容をフィードバックし、共有しています。スピーチロックについても、「座ってて、待ってて」などの言葉は使用せず、職員間で考えた代替え言葉で声かけするなど、常に意識した対応を心がけています。玄関の施錠については、入り口の前が道路になっている為、安全面に考慮して施錠しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修の中で、虐待防止の研修を設けてそこに参加している。又全体会議の中でも、虐待防止チェックリストを活用し、日々のケアと照らし合わせて認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に研修に参加して、他の職員へ周知している。成年後見制度の利用をされている方、又これから利用を考えているご家族へは、相談と情報の提供を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者とユニット長共に立ち会い、丁寧な説明と伝え洩れがないような体制をとり入れている。 又、ご家族様の要望をより取り入れられるように情報の共有をはかっている。 解約の際は、居室の片付け等協力出来る事はさせて頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて代表者の意見や助言を伺い反映させている。家族会の時にも、意見や要望を伺い、ケアに反映させている。意見箱の設置も実施している	家族からの意見・要望については運営推進会議や毎月開催している春風喫茶(家族向けのお茶会)では多数の家族が参加しているので、意見・要望を伺っています。また家族会では、16家族が参加するなど、事業所と家族間は良好な関係が構築できています。面会時にも利用者の様子を伝えると共に、悩みや相談事について話しを聞いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を設け、各職員からの意見を大切に事業所の運営に反映させている。事業部長・副事業部長にも参加して頂き、報・連・相の場としている	職員からの意見は、毎月の職員会議、ユニット会議で意見や要望を聴取し、全員で話し合い検討した上で業務改善に繋げています。年に数回、個人面談（正職員は2回、パート・非常勤は1回）を実施しており、上期・下期で設定している個人目標についての振り返りと併せて、意見や提案を聞き、働きやすい職場環境作りに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、正職員を対象とした評価制度を導入して、実績や達成評価を面談し、昇給昇格へ反映できるように努めている。又、全職員へ業務改善に向けたアンケートを実施し、働きやすい職場環境が提供できるように心がけている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行っている。又月に一度の事業部研修の参加は必ず行っている GH連絡会主催の外部研修にも積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流の機会を作る事を提供している。都筑エリア内のGHとの交流は特に多く協力体制をとったり情報交換を密にしている。又、法人内の他職種連絡会議にも毎月参加し、情報交換の場としている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学の際に、要望等を伺い、これまでの生活歴を含めて情報収集をして、最初の関係作りに活かしている。又、入居当初は密に関わりを持ちホームでの生活の様子を情報収集し、今後の支援に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、契約の際に状況を聞く時間を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定でない事を踏まえ、将来の変化を予期する事も必要だが、現段階で何が必要で何が出来るかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、日常生活の中での家族的な場面に参加し職員と共に活動して頂くように支援している。常にご利用者が主体でいられる環境作りを提供している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力しあう事でご本人が安心した生活が送れる事を説明し、様々な事でご協力を頂いている。又、毎月実施している「春風喫茶」にもお誘いし、ご家族様との憩いのひと時を提供しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、地域の方との交流が継続できるように場所の提供を支援している。ホームへの電話も積極的にお繋ぎし、交友関係の継続へ向けたサポートをしています	交友関係の広い方は、家族以外に友人の訪問も多く5, 6人の方が一同にくることもあります。家族や友人が来た際には、寛いで過ごせるよう、居室に案内してお茶出し等も行っています。手紙のやり取りを継続している方もおり、ポスト投函等を手伝いやり取りを継続出来るように支援しています。中には自宅で外泊する方もいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースに於いて職員が関われる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や、施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人と会話をし、願いや希望を把握している。その情報をもとにカンファレンスの中で共有化し、ケアプランに反映できるように取り組んでいる	管理者は利用者に関わる時間を持つことに重点を置いており、少しでも手が空いた時には利用者の話を傾聴することを徹底しています。入居時のアセスメントで得られた情報、日々の関わりの中で本人から聞きだした情報についてはケアプランに盛り込み、個別支援で対応しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用などの状況をご本人やご家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人一人最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスなどで、ご利用者一人一人の介護計画のモニタリングを実施している。その中でプランの見直しも全職員の意見を反映するように努めている。更新時には、ご家族様の意見も伺い反映できるようにしている。	毎月のカンファレンスで9人全員についてモニタリングを行っています。介護計画の見直しについては、3ヶ月を基本とし、個人記録や職員の気づき等を基にアセスメントしながら、介護計画の見直しを行っています。家族には、面会時や電話、定期的に郵送している手紙に居室担当者が日頃の様子を記入し、家族の意見等を伺っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、変化が見られた際は、カンファレンスの中で取り上げる。介護計画へ反映すべき事柄については、随時、見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事で、ホーム内にて多彩な活動(ちぎり絵・習字・塗り絵・フラダンス)を行い、ご利用者の生活が豊になるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関による訪問診療を利用させていただきながら、24時間365日の医療連携に努めている。ご本人・ご家族が納得する診療内容になるように橋渡しをしている	事業所の協力医について説明し、事業所の協力医または従来のかかりつけ医での受診を継続するかを決めていただいています。ほとんどの方が事業所の協力医と契約しており、月2回の往診を受けています。歯科は週1回、診察と兼ねて口腔ケアがあります。協力医療機関とは24時間の医療連携体制を構築しており、家族・利用者の安心に繋がっています。看護師は週1回、利用者の健康管理を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関により、週1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ、早期の支援が出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに提供している。また退院に向け、ソーシャルワーカーと連絡も図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回の契約時に重度化や終末期に係る指針を説明し、事業所が対応可能な範囲を確認し、同意をしている。又、医療機関とも連携を図りながら、ご家族へは納得した説明を行っている。	入居時に重度化や終末期における指針について家族に説明しています。事業所ではターミナルケアの実績もあります。近年は事業所での看取りを希望する家族も増えてきており、法人でも積極的に看取りを行っていく方針を掲げています。往診時に医師から終末期の話が出た際には、家族、医師、管理者の3者で話し合い方向性を確認し、家族の意向に沿って支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。又、訓練に関しては、救命講習を年1度実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練を実施している。地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。	事業所では年6回、夜間想定地震、火災、を含む防犯対策訓練も実施しています。防犯対策訓練は、契約している警備会社立会いの下、刺股の取り扱い訓練も行っています。また、地域とは防災協定を締結しており、災害時における相互の協力体制は確立しています。地域の方からの助言で、近所の方に知らせる手段として庭にサイレンを取り付けました。備蓄品は3日分の水、食料品を準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部研修の中でプライバシーの保護というテーマに添って、学ぶ場を設けている。 個人の尊重をした声かけやプライバシーに配慮した声掛けも常に意識するように指導している	法人の理念にも掲げられている「人間が主体である」に基づき、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう声かけや対応に十分留意しています。事業所では「接遇・言葉遣いの心構えリスト」を作成し、曜日ごとに言葉や対応を変えながら、日々業務にあたっています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話に傾聴をし、本人が自己決定できるように働きかけている	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いする事のないように配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者の栄養士により、高齢者向けの福祉メニューを導入している。食事時のBGMや座席にも配慮をし、食事摂取が進む環境づくりをしている。食事の準備、片付けもご利用者の参加を実施し、役割を持った生活を提供している	食材の調達には食材会社からレシピ付で配達してもらっています。食事の準備や片付け等は、利用者のADLに合わせて出来ることをやってもらうようにして、食事の準備や片付けに関わってもらうようにしています。食事中はBGMを流し、職員との会話を交えながら落ち着いた雰囲気ですべてを食べられるように心がけています。パン好きの方もいるので、月に数回はパンを食事に取り入れるなどの配慮もしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援している。10時の水分補給は牛乳を使用した飲み物を提供し、カルシウムを摂取して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている。訪問歯科からのアドバイスも頂き、予防にも努めている 食事前の嚥下体操も実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛け・誘導や一人一人の排泄のリズムを各職員が把握して、対応している。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握に努め、仕草や表情からサインを見逃さないよう注意深く観察して、トイレ誘導を行っています。便秘気味の方には、薬に頼らず、腹部マッサージや長く便器に座ってもらうことを心がけ、自然排泄を促すように支援しています。トイレの扉はアコーディオンになっていますが、内側にカーテンを付けることで、プライバシーや羞恥心にも考慮しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便困が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を目安として、ご案内しているが拒否がある方や、希望がある方には、職員の都合を押し付けないように配慮している。週2日以上を希望された場合は、断る事なく、入浴を楽しんで頂く	週2回の入浴を基本としていますが、入浴日や時間は決まらずに本人の気分や体調に合わせて臨機応変に対応しています。拒否のある方には環境や職員を代えながら、無理強いせず本人のタイミングで入浴を促しています。季節感を感じてもらえるように、ゆずや菖蒲も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々の個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している。誤薬が起きぬ様、マニュアルを作成し、確実な服薬支援に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している。マンネリ化した生活にならない様に、レクレーションの充実を図っている			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方に対しては、要望を受けて散歩や買い物にお誘いしている。特別な場所への対応に関しては、ご家族と連携を図り、安全を配慮している	敷地内は広く、庭で毎月春風喫茶（お茶会）や、今年度から取り組み始めた園芸療法では、外気に触れ、直接肌で四季の移り変わりを感じてもらいながら、残存能力を生かして草取りや水やりをしてもらうことでADLの維持にも繋げています。また、車で買い物や外食など希望に応じて外へ出る機会を設けています。今年の5月には利用者全員で里山ガーデンに行ったので、今後は、家族も交えながら遠出をしたいと計画しています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。手紙の作成、投函に関しても支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をする事の無い様に配慮している 季節感を感じられるような飾りつけも、ご利用者と一緒に作成している。整理整頓にも心掛け、清潔感を大切にしています	建物は平屋建になっており、ユニットごとに入り口が別れていますが、建物の中は自由にユニット間の出入りが自由にできるようになっています。室内は左右対称の造りになっており、事務室、調理室、浴室が並び、リビングはT字型になっています。リビングを中心に左右に居室が並ぶレイアウトで、壁には利用者の作品や外出時の写真、テーブルの上には季節の生け花を飾り、季節が感じられるよう工夫しています。リビングの色合いも温かく家庭的な雰囲気になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫している。隣のユニットの方でも仲良くなれば、気軽に顔を出す事ができるような体制作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、ご本人の希望や状態に合わせて使用して頂いている。 自分のお部屋が覚えられない方の為に、入口にネームプレートを設置している。安心して生活ができるように、馴染みの物を取り入れる工夫もしている	エアコンとクローゼットは備え付けとして用意されていますが、入居時に家具や調度品を持ち込んでいただくように話しています。テレビ、机、椅子、ベット、タンス、ラジカセを持ち込んでいる方、絵画や自分で書いた絵を飾っている方もおり、一人ひとり個性のある居室作りがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促がし見守りをおこなう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している		

目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

作成日

平成29年9月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	個々の能力に差が生じており、最適なケアに時間を要する	職員一人一人のスキルアップ	毎月、全体会議の中で勉強会を実施し、認知症ケア・介護技術・コミュニケーション能力等を身につける	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	春風の丘
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝の朝礼時に唱和をして、日々のケアで実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	牛久保東町内会への加入をし、地域行事へは積極的な参加を実施している。 運営推進会議にも、ご利用者が出席され、地域の方とのコミュニケーションの場としている。公園へ散歩へ出れば、挨拶を交わし、地域の方々に支えられている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験の場を設け、認知症支援の手助けをしたり、理解を深めて頂いている 小学校へ認知症サポート養成講座の講師としても、毎年参加している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解してもらい意見交換を行っている。また、話し合われた情報や地域の方の助言を職員間で共有し、日々のケアに活用している		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事に参加して頂き、日々の支援への報告や助言を頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業部研修の中で、身体拘束廃止の研修を設けそれに参加している。参加者より、事業所の会議にて落とし込んで認識を深めている。 言葉による拘束(スピーチロック)には特に周知している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修の中で、虐待防止の研修を設けてそこに参加している。又全体会議の中でも、虐待防止チェックリストを活用し、日々のケアと照らし合わせて認識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に研修に参加して、他の職員へ周知している。成年後見制度の利用をされている方、又これから利用を考えているご家族へは、相談と情報の提供を実施している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者とユニット長共に立ち会い、丁寧な説明と伝え洩れないような体制をとり入れている。 又、ご家族様の要望をより取り入れられるように情報の共有をはかっている。 解約の際は、居室の片付け等協力出来る事はさせて頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて代表者の意見や助言を伺い反映させている。家族会の時にも、意見や要望を伺い、ケアに反映させている。意見箱の設置も実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回会議を設け、各職員からの意見を大切に事業所の運営に反映させている。事業部長・副事業部長にも参加して頂き、報・連・相の場としている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、正職員を対象とした評価制度を導入して、実績や達成評価を面談し、昇給昇格へ反映できるように努めている。又、全職員へ業務改善に向けたアンケートを実施し、働きやすい職場環境が提供できるように心がけている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行っている。又月に一度の事業部研修の参加は必ず行っている GH連絡会主催の外部研修にも積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流の機会を作る事を提供している。都筑エリア内のGHとの交流は特に多く協力体制をとったり情報交換を密にしている。又、法人内の他職種連絡会議にも毎月参加し、情報交換の場としている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学の際に、要望等を伺い、これまでの生活歴を含めて情報収集をして、最初の関係作りに活かしている。又、入居当初は密に関わりを持ちホームでの生活の様子を情報収集し、今後の支援に活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、契約の際に状況を聞く時間を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定でない事を踏まえ、将来の変化を予期する事も必要だが、現段階で何が必要で何が出来るかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重した上で、日常生活の中での家族的な場面に参加し職員と共に活動して頂くように支援している。常にご利用者が主体でいられる環境作りを提供している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力しあう事でご本人が安心して生活が送れる事を説明し、様々な事でご協力を頂いている。又、毎月実施している「春風喫茶」にもお誘いし、ご家族様との憩いのひと時を提供しています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、地域の方との交流が継続できるように場所の提供を支援している。ホームへの電話も積極的にお繋ぎし、交友関係の継続へ向けたサポートをしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースに於いて職員が関われる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や、施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、ご本人と会話をし、願いや希望を把握している。その情報をもとにカンファレンスの中で共有化し、ケアプランに反映できるように取り組んでいる		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用などの状況をご本人やご家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人一人最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスなどで、ご利用者一人一人の介護計画のモニタリングを実施している。その中でプランの見直しも全職員の意見を反映するように努めている。更新時には、ご家族様の意見も伺い反映できるようにしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、変化が見られた際は、カンファレンスの中で取り上げる。介護計画へ反映すべき事柄については、随時、見直しをしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事で、ホーム内にて多彩な活動(ちぎり絵・習字・塗り絵・フラダンス)を行い、ご利用者の生活が豊になるように支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療機関による訪問診療を利用させていただきながら、24時間365日の医療連携に努めている。ご本人・ご家族が納得する診療内容になるように橋渡しをしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医療機関により、週1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ、早期の支援が出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに提供している。また退院に向け、ソーシャルワーカーと連絡も図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回の契約時に重度化や終末期に係る指針を説明し、事業所が対応可能な範囲を確認し、同意をしている。又、医療機関とも連携を図りながら、ご家族へは納得した説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、活用している。又、訓練に関しては、救命講習を年1度実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回の避難訓練を実施している。地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業部研修の中でプライバシーの保護というテーマに添って、学ぶ場を設けている。 個人の尊重をした声かけやプライバシーに配慮した声掛けも常に意識するように指導している			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話に傾聴をし、本人が自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いする事のないように配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達業者の栄養士により、高齢者向けの福祉メニューを導入している。食事時のBGMや座席にも配慮をし、食事摂取が進む環境づくりをしている。食事の準備、片付けもご利用者の参加を実施し、役割を持った生活を提供している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援している。10時の水分補給は牛乳を使用した飲み物を提供し、カルシウムを摂取して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている。訪問歯科からのアドバイスも頂き、予防にも努めている 食事前の嚥下体操も実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛け・誘導や一人一人の排泄のリズムを各職員が把握して、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便困が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を目安として、ご案内しているが拒否がある方や、希望がある方には、職員の都合を押し付けないように配慮している。週2日以上を希望された場合は、断る事なく、入浴を楽しんで頂く		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々の個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している 誤薬が起きぬ様、マニュアルを作成し、確実な服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している。マンネリ化した生活にならない様に、レクレーションの充実を図っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある方に対しては、要望を受けて散歩や買い物にお誘いしている。 特別な場所への対応に関しては、ご家族と連携を図り、安全を配慮している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。手紙の作成、投函に関しても支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をする事の無い様に配慮している 季節感を感じられるような飾りつけも、ご利用者と一緒に作成している。整理整頓にも心掛け、清潔感を大切にしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫している。隣のユニットの方でも仲良くなれば、気軽に顔を出す事ができるような体制作りをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、ご本人の希望や状態に合わせて使用して頂いている。 自分のお部屋が覚えられない方の為に、入口にネームプレートを設置している。安心して生活ができるように、馴染みの物を取り入れる工夫もしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促がし見守りをおこなう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している		

目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

作成日

平成29年9月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	個々の能力に差が生じており、最適なケアに時間を要する	職員一人一人のスキルアップ	毎月、全体会議の中で勉強会を実施し、認知症ケア・介護技術・コミュニケーション能力等を身につける	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。